

▼ 第1回ワークショップを開催しました ―――

天下茶屋の「らしさ」を知る

第1回目となる今回は、西成区民センターに約30名の地域住民・地域関係者が集まりました。

前半には、地域の「良いところ」や「気になるところ」、これまで天下茶屋で行われてきたまちづくりの取組について共有し、後半のテーブルワークでは、「“天下茶屋らしい”」と思った出来事・エピソード」をテーマに、子どもの頃の思い出や、昔あった印象的なもの、最近あった出来事などをざっくばらんに語り合いました。

《導入》

「にしなりのこと」を知る

ワークショップに先立ち、参加者が天下茶屋エリアの現状や地域特性を理解し、共通の認識を持ったうえで意見交換を行えるよう、地域に関する事前レクチャーを実施しました。

レクチャーでは、まず天下茶屋エリアの現状として、人口動態や地域の成り立ち・歴史など、地域を捉えるうえでの基礎的な情報に加え、地域の魅力や課題について紹介し、現在の地域が抱える特徴や可能性について参加者と共有しました。

また、令和6～7年度に実施した取組や成果に加え、令和8年度に進めている取組についても説明しました。これまでの活動の経緯や現在進めている取組を共有することで、今回のワークショップがこれまでのまちづくりの流れの中で、どのような位置づけにあるのかを参加者に理解してもらい、その後のテーブルワークに繋げました。

《テーブルワーク》

“天下茶屋らしいな”と思った出来事・エピソードとは？

A～Dのグループに分かれて、テーブルワークを行いました。

まずアイスブレイクとして、参加者同士で自己紹介を行い、それぞれの立場や天下茶屋との関わりについて共有しました。

続いて、天下茶屋で過ごす中で、参加者自身がこれまでに感じた「ええなあと思ったこと」や「なんとなく印象に残っている出来事」を書き出し、それぞれが感じている天下茶屋の魅力や印象に残っている場面について、参加者同士で意見を交わしました。



ええとこ(魅力)

みんなご近所さん

駅西のまちづくり

とにかく便利
さらに便利に食・歴史・文化
にあふれている実はめっちゃ
人が来ている

しんどいこと(課題)

人口減少

空き家の多さ

コミュニティの課題

狭い宅地・道路

特区民泊

イメージのギャップ



各グループの出来事・エピソード（一部抜粋）

【Aグループ】

- ・ **子どもの頃の遊び場は商店街とお風呂屋さんだった。**
お風呂屋さんに仮面ライダーの怪人の人形をたくさん持ち込んで遊んでいたら、お風呂屋さんのご主人にめちゃくちゃ怒られた。
- ・ 今はないが、昔は**1のつく日に夜店があった**。また、柳では2のつく日に、花園では8のつく日には夜店が開催されていた。
- ・ ホルモン、たこ焼き、お好み焼、やきそばなど、**気軽に食べ歩きができるところが天下茶屋らしい。たれとヒシウメソースで育ってきた。**
- ・ 西成に住んでいる人は**人情にあつく、とてもいい人が多い**。居酒屋にいと、気が付いたら友達になっていることがよくある。



【Bグループ】

- ・ 南海が高架線となる前の天下茶屋北の橋通では、**開かずの踏切**と言われ、車や人がしょっちゅう渋滞していたのは、**天下茶屋の日常的な風景**でした。
- ・ 大フィルは、地元の方の来場が多い。これまで来場されることのなかった方も**区民だよりをみて、来てくれる風景はほほえましい**。
- ・ 商店街を歩いていた外国人。民泊を探している模様であったが、マップを見てもわかりづらいようでした。そこで、声をかけ、自分の店に招き入れ（夏場の暑い時期でしたので少しでも涼んでもらうため）、一緒に調べてあげて、予約した民泊までご案内した店主。**英語が喋れるわけでもないのに、気さくに話しかけ、コミュニケーションが図れるまち天下茶屋！**



【Cグループ】

- ・ **子どもの頃、天下茶屋にある「中央センター」という市場へ、コロケを買いに行ったのが、はじめてのおつかいだった。**八百屋さんや精肉店があった。
- ・ 「中央市場」や「花園市場」の他にも、個人商店の集まる「北店市場」があった。現在でいうポイント制度と似ていて、**この市場でしか使えない商品券がもらえていた**。
- ・ 夜市の楽しみとして、50円ほどで買える「**いなりまんじゅう**」があった。売っているおばちゃんに今日の出店の場所を聞き、夜に買いに行っていた。
- ・ 天下茶屋の駄菓子屋は、小学生の上級生から下級生が日々、集まる場所だった。**小学生同士で注意しあうような空間が生まれていて、下町らしさを感じる**。



【Dグループ】

- ・ 昔は酒屋の横に駄菓子屋があり、子どもたちが遊びに来ると、おっちゃんが100円をくれることもあった。酒屋で大人が楽しむ一方、そのすぐそばでは子どもたちも駄菓子を買って楽しむなど、**大人と子どもが同じ空間の中で自然に共存し、交流が生まれていた**。
- ・ 天下茶屋公園では、毎朝6時半からラジオ体操が行われており、健康づくりと同時に、**地域の人々が顔を合わせるコミュニティの場となっている**。
- ・ 民泊を利用するインバウンドに対し、オーナーが日本語で注意していた際、言葉が通じずコミュニケーションが難しい場面があったが、周囲の地域住民が自然と出てきて対応を助けることがあったようだ。**天下茶屋には周囲の人が自然に関わり、助け合う関係がある**。

